

空とこども絵本館 開館15周年

たくさんの笑顔と夢を育て

家族に抱かれ
家族の手がめくる
絵本の絵を見つめ
家族の話しかける言葉の
やさしさあたたかさ
愛の深さを感じるとき
赤ちゃんの心とからだは
いきいきと育つのです。

絵本は
赤ちゃんにとって
愛の言葉をくみだす泉です

松居 直まっすい ただ



問い合わせ

空とこども絵本館 ☎23・0033



絵本のある生活を 子供と一緒に

利用者 岡本 めぐみさん

私が絵本館に出会ったのは11年前、長男がまだ0歳の時でした。ブックスタートのお便りでこの施設を知って、足を運びました。当時、「絵本を読んであげたい。」と思うものの、実際どう読み聞かせたら良いかわからずに迷っていた時、ふと館長が「赤ちゃんって本の感触も好きなんだよね。」と声をかけてくれたのです。その一言で本に触るだけでもいいんだ。」と気持ちが軽くなり、うれしくなったことを覚えています。

子供たちも絵本が好きで、小さな時はひざの上に乗せて読み聞かせしていました。今では子供たちも大きくなって忙しい毎日ですが、週に数回、数分、一つの本をみんなで読む時間があります。この習慣も絵本館のお陰であり、とても貴重なことだと思います。

絵本館が本当に好きです。大型の絵本や紙芝居などいろいろなお本があるだけでなく、優しいスタッフが温かく見守ってくださる、私にとって、とても安心できる空間です。

インタビュー

絵本との出会いを未来へ紡ぐ

一冊の絵本を、大人と子供とが共に読む。そして、そこから生まれる想像の広がりと共に楽しむ。そのための場所として、絵本館は生まれました。

お父さんお母さんに連れられてやって来る子供たち。大人の靴と子供の靴が靴箱に並び始めると、絵本館はにわかに動き出します。書架から絵本を引っ張り出し、カウンターに運んでいく子もいれば、「もっかいもう一回。」と何度も同じ本を読んでもらう子もいる。感染症対策で制限されていますが、あちこちから小さな声が聞こえてくる館内には、温かくて和やかな風が吹いているようです。

絵本の絵が、読む人の声によって動き出すように、絵本館もまた、絵本を楽しむ家族の声やまなざしに励まされ、力づけられて歩みを進めてきました。共にひと時を過ごしてくださる皆さんの笑顔に、これからも成長する絵本館でありたいと願っています。



館長
尾木沢 響子さん

松居直さんが編集した絵本



市民グループ 松居直コレクション プロジェクト会員募集中!

活動内容

松居直さんの「絵本への想い」や寄贈資料を、展示会や講演会などの開催を通して広めています。

本年の方針

- ① 親子読書の奨励
- ② 絵本文化の研究
- ③ 絵本文化の継承

申し込み

空とこども絵本館
☎23・0033

ありがとう絵本館 開館15周年

記念セレモニー

とき 7月10日(土) 10時30分~11時
ところ 空とこども絵本館 広場
内容 オープニング
絵本館みらい郵便
大きな段ボール製のケーキカット
《のはらうた》でお祝い



同時開催 (松居直コレクションプロジェクト主催)

BOOKかふえ・絵本館ホール展示
とき 7月10日(土) 10時~15時
ところ 絵本館ホール夢の本棚

「言葉はいきる力」
『土地言葉(方言)が失われつつある昨今、大切なことは、「にほんご」の中で土地言葉と文化を活かして次の世代へと伝えること』
これらは児童文学者であり、絵本館の前顧問である松居直さんの言葉です。
この言葉をモットーに、絵本館では、4ヶ月児の親子に絵本をプレゼントする「ブックスタート」事業を行ったり、小松の民話絵本を企画・出版したりしています。その他、スタッフが保育園や高齢者施設などへ出向いて絵本や紙芝居を読み聞かせる「出張絵本館」や定期的に「おはなし会」を開催するなど、一人でも多くの人に絵本と触れ合ってもらいたい、様々な取り組みを続けてきました。
これからは絵本を介して出会ったご縁を大切に、温かさや優しさが溢れる絵本館を目指して、歩み続けます。

赤ちゃんや子供とゆつくり絵本を楽しみたい。そんな思いが形となって平成18年7月に県内初となる絵本に特化した図書館「空とこども絵本館」が誕生しました。
この施設は、声を出して本を読むことができる図書館で、館内の好きな場所で絵本に触れ合うことができます。
開館以来15年の間、延べ43万人もの方々に親しまれ、絵本を通して親子の触れ合いと成長を数多く見守ってきました。